

滝川市廃棄物減量等推進審議会委員による視察のまとめ

日 時 平成 23 年 8 月 31 日（金） 9：00～17：00

視察場所 リサイクリーン、滝川市一般廃棄物最終処分場、富良野市リサイクルセンター

富良野市リサイクルセンター（対応～富良野市市民環境課長 関根氏）

●昭和 58 年以前は全量埋め立て。昭和 63 年以降一般ごみは焼却処理していたがダイオキシン規制法により平成 14 年焼却施設を廃止。それに伴い、最終処分場の延命化等の理由により、できるだけ残渣の少ない分別、リサイクルを目指し現在の収集分別となる。

●特徴的である固形燃料ごみ（生ごみ以外の可燃ごみ）について、江別市の製紙会社、厚別区の清掃センターに全量納入。経費はおよそ 20,000 円/t、2,000 円/t の引取り額。この燃料は、専用のボイラーが必要で、一般には不向きな燃料。現在、道内では、札幌、苫小牧、留萌（来年度で中止予定）で稼働。

●ごみ処理手数料を賦課しているのは、大型ごみ（粗大ごみ）、小型電気製品のみ。固形燃料ごみや生ごみ等のごみ袋については、市民がごみ袋を買い排出しているが、ごみ袋はあくまでも原価料のみで、ごみ処理手数料は賦課されていない。また、市のごみ袋の仕様書に沿って、各お店が販売（製造）している。

生ごみ袋～30 円/枚 ともろこしの原料の生成により、生ごみ処理上、袋を破碎分別しなくてもいい。

固形燃料ごみ～15 円/枚

●富良野市でも有料化について審議会に議論されたが、富良野市は、ごみを細分別しリサイクルすることでごみ処理の経費を抑える考え方。そのためには、市民の協力が不可欠。ごみステーション方式の収集で町内会の管理により、ここ数年分別も徹底されている。また、収集委託業者も少しでも分別されていないと警告シールにより厳しく対応している。